

# 環境・社会報告書2017



# 環 ～わ～

当社は、環境問題を解決するため日々挑戦を続け、今年度で第22期を迎えました。当社がこれまで築いてきた“資源が循環する（巡る）社会の仕組み”や“社員同士の繋がり”、“ステークホルダーの皆様と当社との繋がり”を鑑み、本報告書のテーマとして、「環」という言葉に着目しました。



「環」は、水面に広がる波紋のようなものです。波紋は一滴の水が循環してでき、波が繋がりつつ広がる様子は、環がもつ「輪」や「巡る」という意味と通じるものがあります。当社の「環」を波紋のように大きく広げること、そして一滴の水が水面に循環するように新たな「環」を創造し続けることを目指し、社員一丸となって達成しようという想いを込めています。

（写真：環境事業本部 名古屋事業部 名古屋リサイクルセンター 早川光美）

## 編集方針

本報告書は、ステークホルダー※の皆様当社の環境及び社会的責任に対する考え方と取り組みをご理解いただくこと、そして当社全社員の意識向上を図ることを目的として発行しています。報告書の作成は例年通り当社社員のみで行い、より会社の雰囲気や伝わるものを目指して作成いたしました。

また、毎年皆様からいただいたご意見を参考に、紙面や取り組みの向上を図っております。巻末にアンケートがございますので、ご一読いただいた後にご意見やご感想がありましたら、是非お聞かせください。

※利害関係者を意味する言葉。具体的には、消費者（顧客）、従業員、株主、取引先、地域社会、行政機関等が挙げられる。

発行日 平成29年8月31日

対象期間 平成28年4月1日～平成29年3月31日

対象範囲 株式会社ダイセキ環境ソリューション  
本社、東京本社、関西支社、九州支店、東北支店、西日本営業所、名港事務所、名古屋リサイクルセンター、弥富リサイクルセンター、横浜リサイクルセンター、大阪リサイクルセンター、仙台リサイクルセンター（共同事業汚染土壌処理施設）、バイオエナジーセンター、名古屋トランシップセンター  
株式会社グリーンアローズ中部 本社工場、名港工場  
株式会社グリーンアローズ九州

作成部門 環境・社会報告書2017作成委員会  
小川雄大 加藤杏菜 金澤野々花 森絵美菜 森本将平 吉田博紀

連絡先 企画管理本部 総務部 総務課  
Tel. 052-611-6350 FAX. 052-611-4022  
E-mail : info@daiseki-eco.co.jp

# 目次

- 3 トップメッセージ
- 5 事業紹介
- 7 特集I 日本最大級の汚染土壌洗浄プラント

## 環境性報告

- 9 環境マネジメント
- 10 マスバランス
- 11 環境測定データ
- 13 目標と実績  
環境負荷低減への取り組み

## 社会性報告

- 16 コンプライアンス
- 17 安全衛生管理
- 19 働きやすい職場づくり
- 21 コミュニケーション活動
- 23 社会貢献活動
- 25 特集II 災害廃棄物の迅速な処理に向けて
- 27 第三者コメント
- 28 会社概要
- 29 環境・社会報告書2016アンケート結果  
編集後記
- 30 アンケート用紙

(株) ダイセキ環境ソリューション 環境・社会報告書2017



イメージキャラクター **はもるん**

本報告書をより楽しく読んでいただくために、環境・社会報告書2017のイメージキャラクターを作成しました。資源の循環や当社に関わるすべての人の繋がりを表す「環」と、一滴の水が水面に広がる「波紋」のイメージを組み合わせたキャラクター『はもるん』です。

本報告書では、はもるんと一緒に当社の魅力をお伝えします！



欠けたピースを埋め、完成する  
新しい“環”

株式会社ダイセキ環境ソリューション 代表取締役社長 **二宮 利彦**

当社が環境・社会報告書を発行し、おかげさまで今年で9年目となります。昨年の報告書では、環境省及び一般財団法人 地球・人間フォーラム主催の「環境コミュニケーション大賞」において、優良賞をいただくことができました。これもひとえに、日頃より温かいご支援をくださるステークホルダーの皆様のお陰でございます。心より御礼申し上げます。

## 『環』は、私たちが目指すもの

今年度の環境・社会報告書のテーマは『環〜わ〜』です。環には「輪」や「巡る」という意味があり、当社がこれまで築いてきた“資源が循環する仕組み”や“人と人との繋がり”を『環』と表現しています。このテーマには、そのような『環』をより強く大きくし、新たな『環』を創造し続けようという想いが込められ

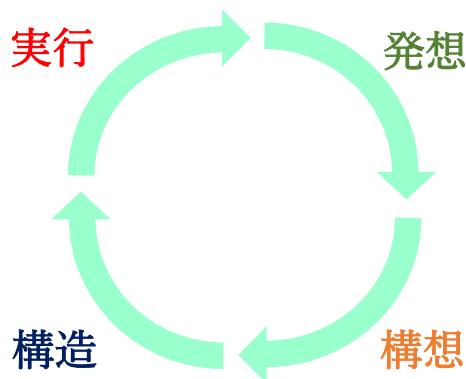
ています。当社の環境・社会報告書は例年その年に入社した新入社員が中心となって作成しておりますが、報告書を作り上げる過程で、社員同士の『環』も強まったのではないのでしょうか。

『環〜わ〜』は当社にぴったりのテーマです。「私たちは、『社会的に不要になったり、負の環境影響を与えるものに対し、工夫を凝らし、再び価値をつける新しい仕組み（環境リバリューストラクチャー）』を創造して、環境課題を解決します。」当社はこのようなミッションを掲げております。例えば、あるピース（新技術・物流手段・処理能力等）が欠けているため未完成のリサイクルの環がある場合、この欠けたピースを当社が埋めることで、新しい環（環境リバリューストラクチャー）を完成させる…私たちが目指しているのは、そのような『環』を一つでも多く創造し、持続可能な社会創りに貢献する企業です。

## 私たちは、日本を代表する 「環境リバリューストラクチャー」創造企業を目指します。

私たちは、『社会的に不要になったり、負の環境影響を与えるものに対し、工夫を凝らし、再び価値をつける新しい仕組み（環境リバリューストラクチャー）』を創造して、環境課題を解決します。

### —経営理念—



一つの**発想**が湧いてくれば、  
それに対して種々**構想**を練り、  
実行のための組織、その他の**構造**を組み立てる。  
そして**実行**に移す。

### ■ 新たな『環』を創造した1年

まさにこれを表しているのが、（一社）日本災害対応システムズ（Japan Disaster Treatment Systems、以下JDTS）への参画です。JDTSは、迅速・適正な災害廃棄物処理方法の構築を目指し、阪神淡路大震災、東日本大震災等で災害廃棄物処理を経験した6社の構成会社にて設立されました。被災地の復興は地元の方々が主役・中心ですが、そこに経験とノウハウを持った私たち構成会社が中心を包む輪のように側面支援をすることで、よりスムーズかつスピーディに『災害廃棄物処理の環』を構築することができる…そう考えて設立されたのがJDTSです。そして、平成28年度からは熊本地震の復興支援を本格始動しました。当社もJDTSの一員として、被災地復興のお手伝いをさせていただいております。

また平成28年度は、日本最大級の汚染土壌洗浄処理プラント、弥富リサイクルセンターの建設に取りかかった年でもありました。洗浄処理で再生できる汚染

土壌を全国から集める構想で、当社としても新しい挑戦です。今年3月に完成し、これから本格稼働となりますが、全国から汚染土壌を受け入れることで、汚染土壌の浄化再生の環が広がっていくことを大いに期待しております。

本報告書は、そんな新たな『環』を創造した、平成28年度の実績を中心に編集しております。皆様におかれましては、ご高覧いただき、忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いです。JDTSや弥富リサイクルセンターに関しては本報告書の特集記事でもご紹介しておりますので、そちらも是非ご覧ください。

最後になりましたが、平素よりご協力いただいておりますステークホルダーの皆様には多大な感謝を申し上げます。これからも皆様の期待に応えるべく、日々精進してまいります。そして、本報告書が架け橋となり、ステークホルダーの皆様と当社との『環』が広がっていきますよう、心より願っております。

## PCB事業

当社では、PCB含有機器の処分までのプロセスを、行政対応を含め、一貫して対応しています。また、大型PCB含有機器の解体や漏えい事故、不法投棄対処等、PCBに関する様々なトラブルにも対応します。



筐体処分場



絶縁油処分場



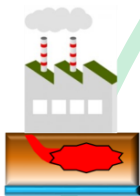
筐体と絶縁油の分別、処分

## 土壌汚染対策事業

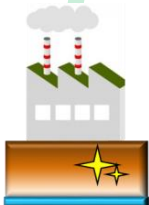


有害物質を取り扱っている事業所や工場を閉鎖あるいは土地売買する際に、行政や土地購入者から土壌汚染調査を求められることがあり、汚染土壌の基準値超過が確認された土壌に対しては適切な対応が必要になります。当社は、土壌汚染対策のコンサルティング、調査、分析、対策・措置、処理を一貫して提供している「One-Stop Solution Company」です。また、建設工事現場等で見つかった汚泥や燃え殻などの産業廃棄物も、法令に基づき適正に処理しています。細やかで素早い対応、低コスト化、情報漏えいの防止、そして高度で多様な提案を実現し、高い技術力をもって環境問題に取り組んでいます。

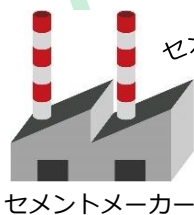
汚染土壌



きれいな土壌



セメント原料



セメントメーカー

## 蛍光灯・乾電池・バッテリー リサイクル事業

当社では、廃蛍光灯や廃乾電池等の水銀含有物を事業者から回収し、中間処理を行った後、水銀リサイクルを行う野村興産(株)に輸送しています。また、鉛が使われている廃バッテリーを、鉛のリサイクルを行う(株)ダイセキMCR(グループ会社)に輸送しています。



廃蛍光灯  
廃電池  
廃バッテリー



事業者



リサイクル工場

Daiseki

ダイセキ  
ソリューション



石膏ボードは、私たちの家の壁や天井にも使われているよ。

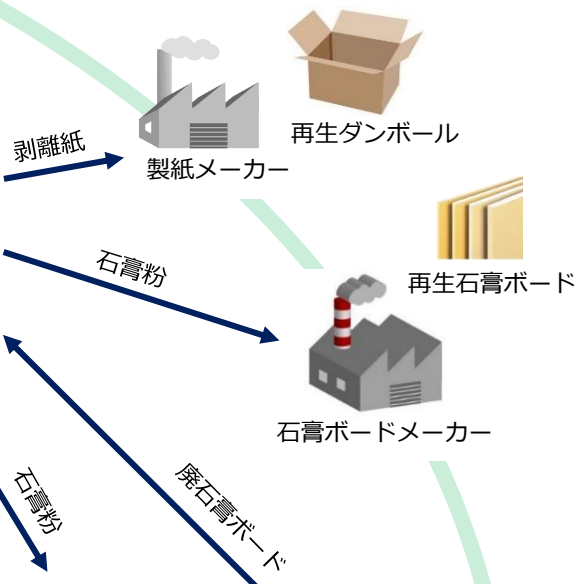
## 廃石膏ボードリサイクル事業

当社グループ会社の（株）グリーンアローズ中部（GAC）、（株）グリーンアローズ九州（GAK）では、建築現場等で発生する廃石膏ボードを回収し、再び石膏ボード\*の原料としてリサイクルしています。



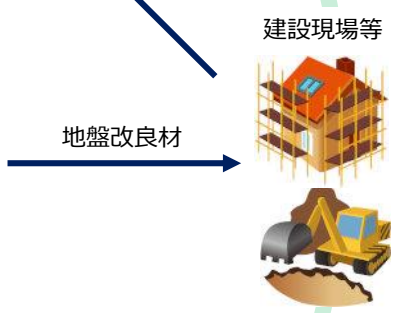
この事業は、排出元、中間処理業者、受入先の共同出資で立ち上げられ、事業共同体として強い結束力を有しているため、確実に効率的なリサイクルを実現しています。

\*石膏を主成分とした素材を板状にし、特殊な板紙で包んだ建築材料。強度、断熱性、遮音性に優れ安価であるため、壁や天井等に広く使用される。石膏中のCaSO<sub>4</sub>由来の硫化水素ガスが発生する可能性があるため、廃棄には注意が必要である。



## 地盤改良材製造事業

GAC名港工場では、石膏粉等の再生資源をベースとしたリサイクル地盤改良材を製造しています。さらに、当社のBDF製造時に排出される廃グリセリンを添加し、粉じんの飛散を防止する環境に優しい地盤改良材の製造もしています。



# キ環境 ーション

## バイオディーゼル燃料製造販売事業

当社では、外食産業や家庭から廃食油（使用済みてんぷら油）を回収し、バイオディーゼル燃料（BDF：バイオディーゼルフューエル）を製造しています。BDFの使用によって発生するCO<sub>2</sub>は、原料である植物が大気中から吸収したものであるため、地球環境中のCO<sub>2</sub>が増加したことにはなりません。また製造したBDFを販売するだけでなく、一部の社用車や工事車両の燃料に用いることで、化石燃料の使用量やCO<sub>2</sub>排出量の削減に貢献しています。



私たちが乗っているバスにもBDFが利用されているんだね！



# 日本最大級の汚染土壌洗浄プラント

平成29年3月、愛知県弥富市に弥富リサイクルセンター（RC）を新たに開業しました。当センターでは日本全国から汚染土壌を受け入れ、処理を行います。

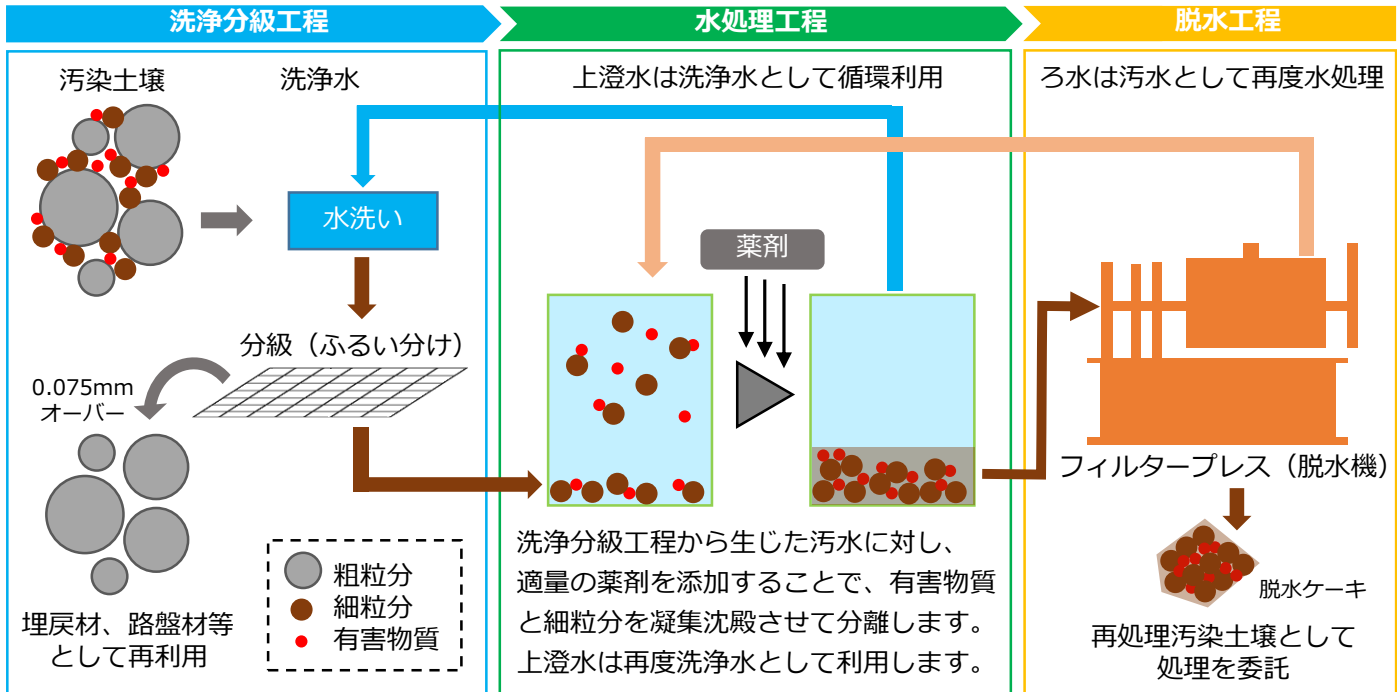
弥富RCの洗浄処理設備は、長年の経験と豊富な実績を集約し、最大約20,000 m<sup>3</sup>/月の処理能力を実現！

ここでは、弥富RCで行われている洗浄処理について説明するよ。



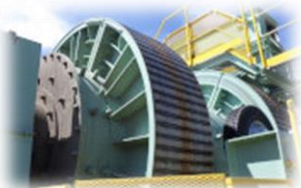
許可番号	第0231001006		
許可年月日	平成29年3月31日		
所在地	愛知県弥富市楠三丁目24番2		
処理能力	洗浄	分別	
	保管量	8,132.36 m <sup>3</sup>	1,164.28 m <sup>3</sup>
	能力	772.8 m <sup>3</sup> /日	211.25 m <sup>3</sup> /日

## ★ 洗浄処理とは… 水洗いにより汚染土壌から有害物質を分離する処理方法で、無害化した土壌は再利用可能



## 弥富RCでは、今までの実績とノウハウを活かし、新たな設備を導入！

① グラベルスクラバー (解泥洗浄機)



回転するドラム型洗浄機に少量の金属棒を挿入することで、粗粒分の表面に付着した汚染物質を効率よく剥離できる

② サンドクリーン (洗浄分級機)



水槽内で水に浮くゴミの除去と細粒分を効率よくすすぎ洗浄することが可能

③ シックナー



時間あたり350m<sup>3</sup>の濁水の凝集沈殿処理が可能

④ フィルタープレス



さまざまな土質に対応するため、3機のフィルタープレスを導入



## 工場説明会・現場見学会

地元企業に向け、工場説明会と現場見学会を実施しました。説明会では施設全体概要や汚染土壌洗浄システムのご説明を行い、見学会では工場内をご案内しました。現場見学会においては、特に洗浄設備の各種機械設備の役割について興味を持っていただきました。最後の意見交換では、当社の環境問題への取り組み、役割について知っていただく貴重な機会となりました。



▲工場説明会・現場見学会

## AED講習会（工場内2箇所設置）

外部講師を招き、AED講習会を実施しました。緊急時の心臓マッサージとAEDによる蘇生措置の実践練習や、緊急時の連絡事項・対応方法の確認等を行いました。講習会を通じ、救命に対する意識が高まりました。

弥富RCでは、当社の『安全はすべてにおいて優先する』の理念のもと、講習会等を実施しています。



▲AED講習会



## INTERVIEW

弥富RCは、これまで培ってきた工事現場やリサイクルセンターの浄化ノウハウを集約したリサイクルセンターです。

例えば品質面では、様々な汚染土の安定処理のため、各設備のマニュアル化・自動化の切り替え、汚染の度合いに応じた土の置場管理、また安全面では、事故を未然防止する場内レイアウト、各種安全設備等を設置しました。

弥富RCでは、全国の汚染土の受け入れ浄化のため、特に、人と人との繋がり～コミュニケーションを大切に～を心掛けています。



環境事業本部 名古屋事業部  
弥富RC センター長  
金子 高志



明るく元気に



安全作業で

本日も、ご安全に！



環境事業本部  
名古屋事業部 弥富RC

# 環境マネジメント

環境保全を主要業務とする当社において、環境マネジメントは最重要課題であると捉えています。当社は、社会的に不要になったり、負の環境影響を与えるものに対し工夫を凝らし、再び価値をつける新しい仕組み「環境リバリューストラクチャー」創造企業として、下記の環境方針を定めています。この方針のもと、事業活動により生じる環境影響を継続的に改善するシステムを構築し、ISO14001の認証を取得しています。

## 環境方針

1. 地球温暖化の防止に資するため、当社の事業活動で消費するエネルギーの中で特に電気および燃料の使用量の削減に努めます。
2. 土壌汚染調査、汚染土壌および産業廃棄物の収集運搬・中間処理の作業を適正かつ安全に行うと共に、不必要なムダを改善して作業の効率化を図ります。
3. 当社で発生する廃棄物の抑制を図ると共に、受け入れた汚染土壌および廃棄物のリサイクル率を高めるために処理技術の向上に努めます。
4. 土壌汚染調査、汚染土壌および産業廃棄物の収集運搬・中間処理の中で、粉じん等の環境負荷の低減及び環境汚染の予防に努め、これらの継続的改善を図ります。
5. 環境側面に関する法規制の他、お客様とのお約束事項、および当社が定める自主管理基準値を順守します。
6. 当社および当社に関連する組織の環境目的・環境目標を設定し、見直しを行います。

平成18年5月15日 制定  
平成28年3月15日 改定

代表取締役社長 二宮利彦

## ISO14001の認証取得と管理体制

### ISO14001登録情報

#### 平成14年

(株)ダイセキ名古屋事業所の関連事業所としての認証登録 (JQA-EM2116)

#### 平成18年

東京本社、名古屋リサイクルセンター (RC)、横浜RC、関西支社を登録  
JQA-EM2116からJQA-EM5648に分割登録

#### 平成20年

大阪RCを登録

#### 平成21年

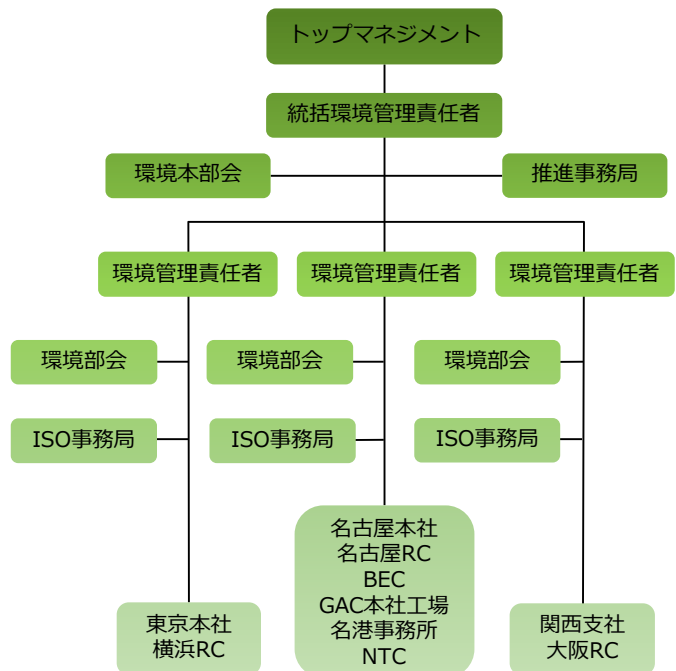
(株)グリーンアローズ中部 (GAC) 本社工場を当社関連事業所として登録

#### 平成25年

バイオエナジーセンター (BEC) を登録

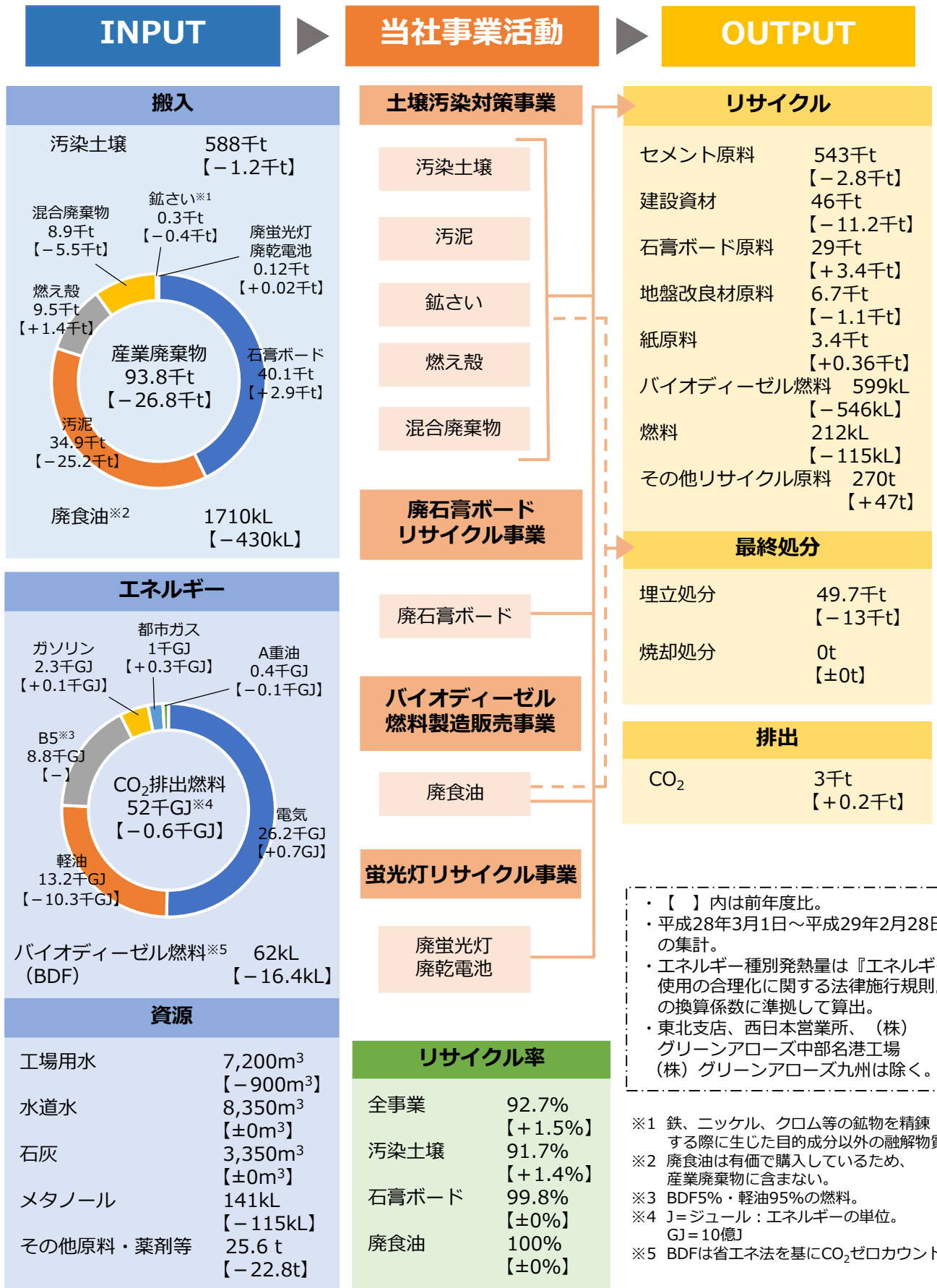
#### 平成28年

名古屋トランシップセンター (NTC)、名港事務所を登録



現在、Plan (計画) ⇒ Do (実行) ⇒ Check (評価) ⇒ Act (改善) のPDCAサイクルを効率的に回せる組織体制を組んでいます。

当社はマ ス バ ラ ン ス（物質収支）を明らかにすることで、事業活動に伴う環境負荷の把握に努めています。環境負荷の傾向を数値化し、目標を掲げて環境負荷低減に取り組んでいます。



# 環境測定データ

当社は事業活動に伴うCO<sub>2</sub>排出量を把握し、その削減に積極的に取り組んでいます。また、事業所別に環境データを測定し、環境影響を持続的に改善する指標としています。

## 事業活動に伴うCO<sub>2</sub>排出量

昨年までは売上当たりのCO<sub>2</sub>排出量を出していましたが、今年からは、処理量当たりのCO<sub>2</sub>排出量に変更しました。

CO<sub>2</sub>排出量は近年増える傾向にありますが、処理量当たりのCO<sub>2</sub>排出量はこの4年間、4.3前後で安定しています（図1）。

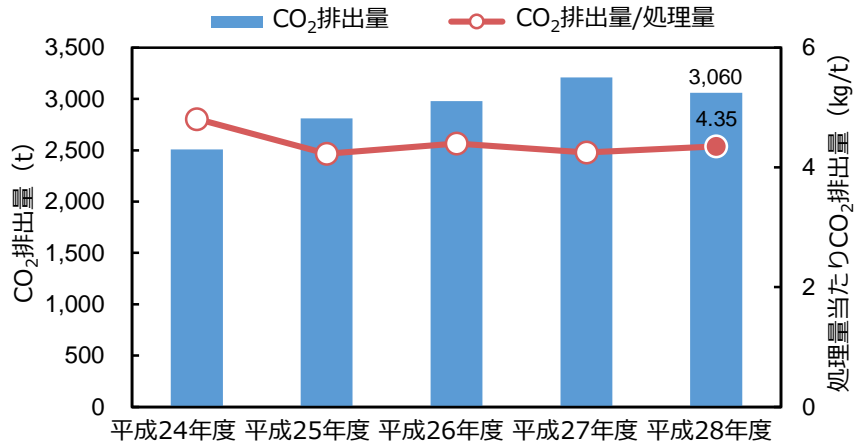


図1 事業活動に伴うCO<sub>2</sub>総排出量

## エネルギー別CO<sub>2</sub>排出量

軽油使用量が大幅に減少していますが、これはこれまで軽油の項目に含めていたB5（BDF5%・軽油95%）の使用量を分けたためです。しかし、軽油とB5のCO<sub>2</sub>排出量を合計しても、昨年と比べて減少しています。これは、B5の使用量が増加したことと、平成27年の大型案件が完了し、工場の稼働量が落ち着いたことが理由として考えられます。

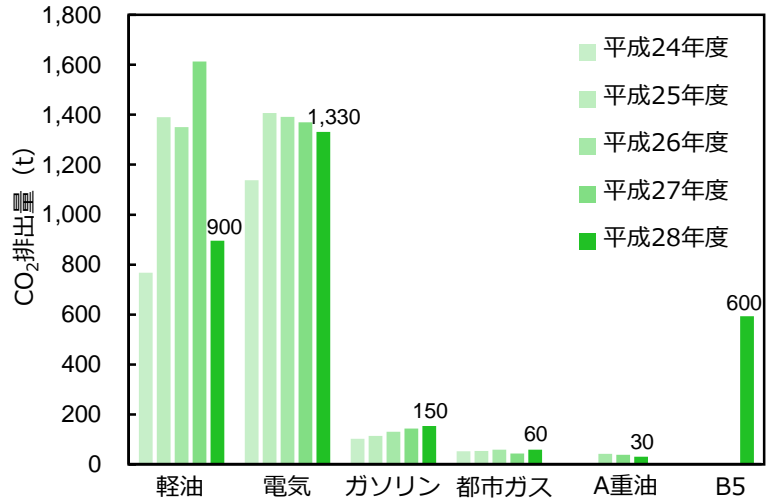


図2 エネルギー別CO<sub>2</sub>排出量

## 委託輸送に係るCO<sub>2</sub>排出量

当社が運搬業者様に委託して汚染土壌や産業廃棄物を運んでいただく過程でもCO<sub>2</sub>は発生します（図3）。これは当社が直接排出するCO<sub>2</sub>総量（図1）の約4倍になっており、その差が年々大きくなりつつあることを意識する必要があります。

委託輸送に係るCO<sub>2</sub>総排出量は、平成27年度は内陸部の案件が増えたため増加していましたが、昨年は平成26年度と同水準となりました。輸送効率に大きな変化は見られません。

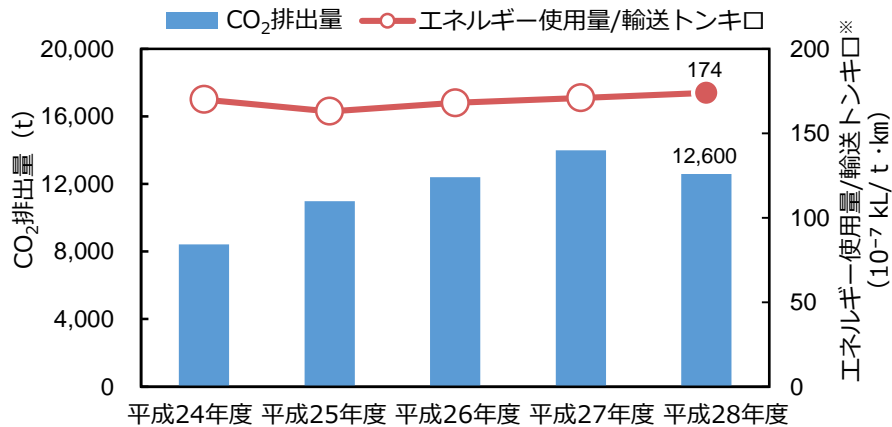
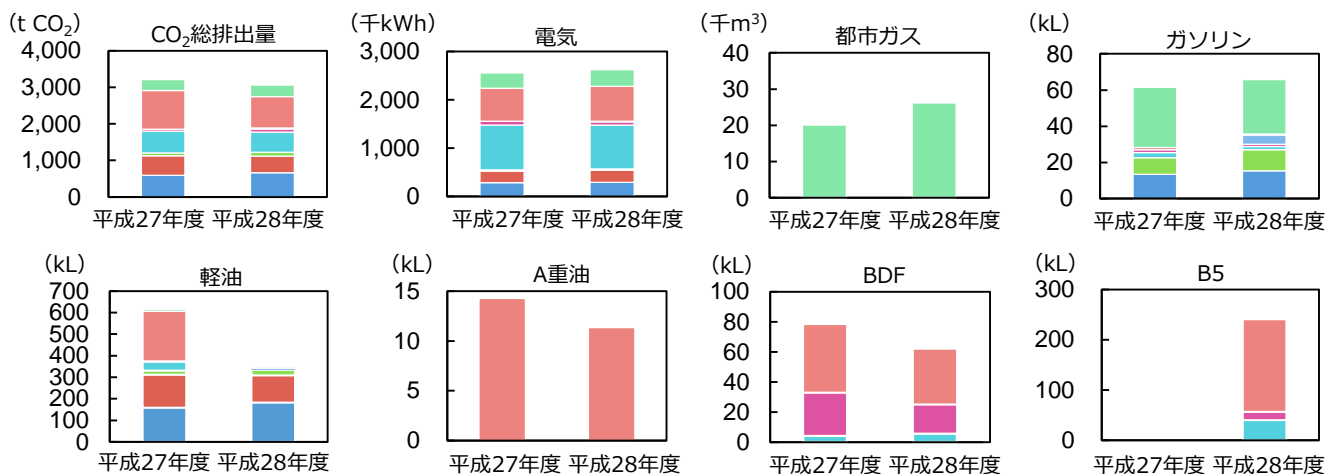


図3 委託輸送に係るCO<sub>2</sub>総排出量

（※図3）エネルギー使用量/輸送トンキロ（エネルギー使用量の単位はリットル）：1tのものを1km運ぶためにかかるエネルギー（重油換算）  
 値が低いほど燃費が良く、輸送効率が良いことを表す。  
 算出方法は「エネルギーの使用の合理化に関する法律」（省エネ法）に準ずる。

## 事業所別CO<sub>2</sub>排出量とエネルギー使用量

当社は事業所別に環境データを測定し、環境影響を持続的に改善する指標としています。



※関西支社と大阪リサイクルセンター（RC）は同じ敷地内に建物があるため、まとめて集計しています。

## 排水水質データ

事業所	①	②	pH		BOD (mg/L)		COD (mg/L)		SS (mg/L)		n-Hex (mg/L)	
			基準値	実測値	基準値	実測値	基準値	実測値	基準値	実測値	基準値	実測値
名古屋RC	①			7.6	<1	-	-		26		<1	
	②	5.8~8.6	7.4	160	-	160	2	200	24	5	<1	
	③		7.9	<1	-	-		39		<1		
横浜RC	①		7.2	-	-	1	9	<1				
	②	5.8~8.6	7.9	-	-	130	35	160	49	5	1	
大阪RC		5.0~9.0	7.6	600	<1	-	-	600	<5	5	<1	

BOD：生物化学的酸素要求量  
 COD：化学的酸素要求量  
 SS：浮遊物質質量  
 n-Hex：ノルマルヘキサン抽出物質含有量（鉱油類含有量）

## 大気汚染物質データ（大気汚染防止法及び土壌汚染対策法に基づいた項目）

事業所	カドミウム及びその他の化合物 (mg/m <sup>3</sup> N)	塩素 (mg/m <sup>3</sup> N)	塩化水素 (mg/m <sup>3</sup> N)	フッ素、フッ化水素及びフッ化ケイ素 (mg/m <sup>3</sup> N)	鉛及びその他の化合物 (mg/m <sup>3</sup> N)	窒素酸化物 (volppm)
許容限度	1	30	700	10	20	250
名古屋RC	<0.002	<1	<2	<1	<0.002	<13
横浜RC	<0.001	<0.2	<3	<1	<0.01	3
大阪RC	<0.002	<1	<2	<1	<0.002	<13

事業所	1,2-ジクロロエタン (volppm)	ジクロロメタン (volppm)	水銀及びその化合物 (volppm)	テトラクロロエチレン (volppm)	トリクロロエチレン (volppm)	ベンゼン (volppm)	PCB (ng/m <sup>3</sup> )
許容限度	-	-	-	-	-	-	-
名古屋RC	<1	<1	<0.002	<1	<1	<1	5.4
横浜RC	<0.5	<0.5	<0.005	<0.5	<0.5	<0.1	190
大阪RC	<1	<1	<0.002	<1	<1	<1	<10

# 目標と実績

事業活動に伴う環境負荷の低減は、事業者の責任です。当社は各テーマに目標を設定し、環境負荷の低減に取り組んでいます。平成28年度の目標と実績は下表の通りです。

目的	対象	平成28年度			取り組み内容
		目標	結果	判定	
省エネルギー・省資源による地球温暖化の防止	電気使用量 (処理量当り)	1%削減※1	8.6%減	○	不要な照明の消灯 作業の効率化
	化石燃料使用量 (処理量当り)	1%削減※1	9.9%減	○	BDF使用 アイドリングストップ の推進
	CO <sub>2</sub> 排出量 (処理量当り)	1%削減※1	9.3%減	○	BDF使用 作業効率の改善
	委託輸送に係る エネルギー (輸送トンキロ当り)	1.70×10 <sup>-5</sup> kL	1.74×10 <sup>-5</sup> kL	×	各事業所との連携 委託業者への協力要請
廃棄物の抑制	リサイクル率 (入荷量当り)	83.5%	93.0%	○	分別の徹底
環境汚染の予防	粉じん苦情件数	0件	0件	○	監視・清掃の実施
循環型社会に貢献	グリーン購入※2率	81.5%以上	89.1%	○	購入先の見直し 購入品の変更

※1 基準値比（基準値は平成26年度の数値を元に決定）

※2 製品を購入する際に、その製品の必要性や環境影響、製造過程での環境負荷等を考慮し、可能な限り環境影響や環境負荷の少なくなるものを優先して購入する取り組み。

## 環境負荷低減への取り組み

目標を達成するために、  
どのようなことに  
取り組んでいるんだろう？



当社の工場、土壌汚染調査・対策工事現場、環境分析における環境負荷低減への取り組みをご紹介します。

### 工場

#### グリーンアローズ

(株)グリーンアローズ中部 (GAC) 本社工場と (株)グリーンアローズ九州 (GAK) では廃石膏ボードのリサイクル、GAC名港工場では地盤改良材の製造を行っています。

#### CO<sub>2</sub>排出量の削減

GAC本社工場では、平成29年1月にトレーラーを購入しました。このトレーラーの最大積載量は25.1tであり、これまで使用していたトラックの約2.5倍の積載量です。1回の輸送でこれまでの2.5回分の輸送が可能となったため、燃料使用量の減量による、CO<sub>2</sub>排出量の削減が期待されます。



#### 重機のバイオディーゼル燃料使用

当社では、BECで製造したBDFを名古屋地区の各工場で積極的に使用しています。なかでも、GACではBDFを全重機に使用し、CO<sub>2</sub>排出量の削減に努めています。

#### 再生資源の利用

地盤改良材の製造を行っているGAC名港工場では、廃グリセリンを添加して粉じんの飛散を防止する、防じん型地盤改良材の製造もしています。この廃グリセリンは、当社のBDF製造過程で排出するものを再利用しています。また、GAC名港工場で製造している地盤改良材は再生資源をベースとしているため、環境負荷低減に大きく貢献しています。

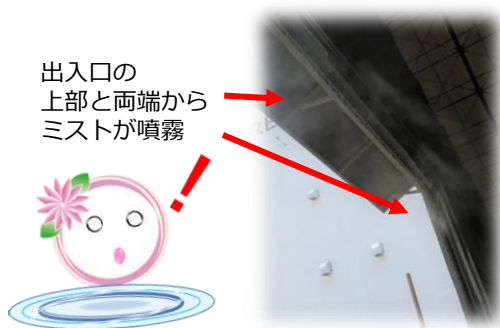
◀GAC本社工場のトレーラー

## リサイクルセンター

名古屋、横浜、大阪、仙台、弥富の各リサイクルセンター（RC）では、汚染土壌の処理及び産業廃棄物の中間処理を行っています。

### 粉じん管理

工場内で発生した粉じんの場外への飛散を防止するため、汚染土壌の搬入出を行うテント建屋内の出入口及び天井にミストカーテンを導入しています。横浜RCでは、昨年12月にミスト装置の補修及び増設工事を行いました。出入口の上部に加え両端からもミストを噴霧させることが可能となり、これまで以上に粉じん飛散の防止が期待されます。また、仙台RCでは高性能な集じん機を導入しており、粉じんの発生量を抑制しています。



▲横浜RCのミストカーテン ▲清掃車による場内清掃



▲仙台RCの集じん機

### 放射線量の定期測定

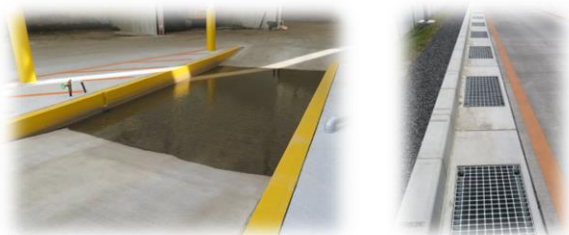
横浜RCでは、週に1回、環境放射線モニタにより放射線量の測定を行っています。工場の決められたポイントごとに行っており、社内で定められた規定値内であることを確認しています。



▲環境放射線モニタ

### 有害物質の漏洩防止

雨水による粉じんや汚染土壌の流出を防止するため、敷地内境界線に側溝を設けています。排水は定期的に検査を行い、有害物質漏洩が無いことを確認しています。また汚染物質の拡散を防止するため、洗輪場でダンプトラックのタイヤを洗浄してもらっています。



▲弥富RCの洗輪場と側溝



### INTERVIEW

仙台環境開発株式会社様と当社の共同事業汚染土壌処理施設では、汚染土壌のリサイクルに加えて、他のセンターでは処理が困難である埋設系廃棄物等を処理しております。不法投棄された廃棄物（混合廃棄物・燃え殻等）は、今までは中間処理が難しく仙台環境開発株式会社様の最終処分場で埋立処理をしておりましたが、共同事業では、分級処理後にセメントリサイクルを行うことができます。全国的に新規設置が難しい最終処分場の埋立容量の延命にも貢献しております。また、場内は作業中にミスト装置や集じん機を稼働すること、1日の作業の終わりには、必ず清掃車で場内の清掃を行うことにより、目標に掲げている「敷地外への粉じん飛散防止」を達成しております。



環境事業本部  
東北支店  
仙台RC  
石村 祐司

## バイオエナジーセンター

バイオエナジーセンター（BEC）では、廃食油からバイオディーゼル燃料（BDF）の生産を行っています。

### 名古屋市の家庭系廃食油BDF化事業

平成27年4月から名古屋市と提携し、家庭から排出される使用済みてんぷら油を回収しています。これをBDFとしてリサイクルし、名古屋市の市バスやゴミ収集車の燃料として供給しています。



▲使用済みてんぷら油 ▲BDFを利用する名古屋市バス

### 社用車のバイオディーゼル燃料使用

平成28年度は、BDF使用可能な社用車9台のうち、6台はBDF100%、3台はB5（BDF5%・軽油95%）を使用しました。CO<sub>2</sub>排出量の削減に向け、今後もBDF使用車両を増やしていく予定です。



▲社用車のBDF使用

## 汚染土壌拡散防止

試料採取時に掘り出した土は、特定有害物質※3が付着しない容器で受け、試料間の混合汚染を防いでいます。作業現場で使用した資材は、当社リサイクルセンター内の設備にて洗浄を行い、汚染の疑いがある土が周辺環境へ拡散したり、

次の現場へ持ち込まれたりしないようにしています。

また、室内での調査や掘削現場ではシートによる養生や散水を行い、汚染土壌の飛散・拡散を防いでいます。▲靴に付着した土壌の除去



▲現地水処理プラント

## 工事騒音・振動防止

騒音・振動による周辺住民の皆様へのご迷惑を極力減らすために、防音シート設置、低騒音型の作業機械の使用、騒音計を用いた敷地境界での騒音チェックのほか、作業時間の厳守にも努めています。

## 環境大気計測

工事前、工事中、工事後に大気中の粉じんを測定して工事による粉じんの増減を確認し、増加している場合は対策をとっています。またVOC※4汚染土壌を浄化する際は、浄化設備から大気中にVOCが揮発していないかどうかを確認しています。



▲大気測定の様子

※3 土壌や地下水に含まれることが原因で、人の健康に被害を生ずる恐れがある有害物質。土壌汚染対策法では、鉛、ヒ素等26物質（平成29年8月現在）が指定されている。

※4 揮発性有機化合物（常温常圧で気化されやすい有機物）の総称。

## 環境分析

### 排ガス浄化設備（スクラバー）の保守点検

有害な気体や粉じんが発生する作業をドラフトチャンバー※5内で行うよう定めており、その排ガスを浄化する設備がスクラバーです。スクラバーが故障や停止して有害物質が外部へ放出されるのを未然に防ぐため、週2回の点検と半年ごとの詳細な点検・清掃を行い、維持管理に努めています。



▲スクラバーの保守点検

### 廃液、土壌サンプルの処理

業務で取り扱う有害物質が、誤って環境中に排出されないよう管理しています。分析時に発生する廃液は、グループ会社の（株）ダイセキに委託し、また分析後の土壌サンプルは当社リサイクルセンターにて適正に処理しています。



▲未処理廃液の一時保管

グループ会社とも協力しているんだね



### 毒劇物などの試薬管理

分析業務では、毒劇物※6や有機溶剤※7を使用します。環境分析部では毒劇物管理規定を定め、取扱責任者の下、徹底した管理を行っています。

※5 大型の箱状をした局所排気装置の一種。有害な蒸気や粉じんを排気ファンによって屋外へと排出する。

※6 毒物及び劇物取締法により規定される毒性の強い物質の総称。

※7 他の物質を溶かす性質を持つ有機化合物の総称。



▲台帳記入の徹底



▲毒劇物の施錠保管



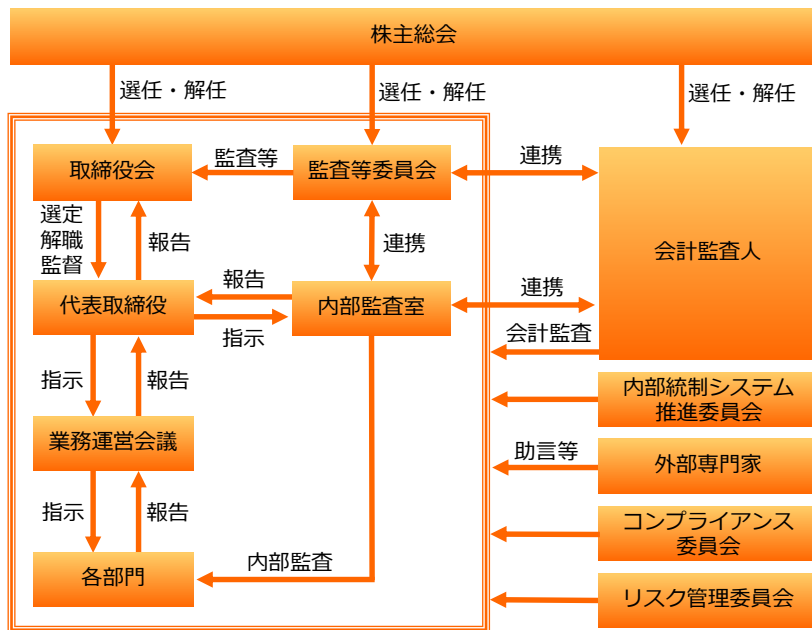
# コンプライアンス

コンプライアンスとは、一般的に企業を健全に運営するための仕組みの基本原理の一つで、法律や内規等のごく基本的なルールに従って行動することです。当社は、健全で透明性が高く、経営環境の変化に迅速かつ的確に対応できる経営体制の確立を最も重要な課題の一つと考えています。

## 組織運営・内部統制体制・監査

当社の取締役会は、取締役（監査等委員3名を含む）7名により構成されています。毎月1回以上開催され、法令により定められた事項、その他経営に関する重要事項を決定しています。

監査等委員会は、当社と利害関係のない社外取締役2名を含む3名で構成されており、原則として毎月1回開催されています。監査等委員である取締役は、取締役会及び他の重要な会議に出席し、取締役の職務執行を監督しています。また、内部監査室及び会計監査人と適宜に意見交換を行い、連携を図っています。



▲内部統制組織 概略図

## 法令遵守

当社は、土壌汚染対策事業を中心として、各種環境関連事業を営んでいます。そのため、一般の事業者と共通のもの、業務上のもの、その他の環境関連のもの等の、主に以下の法令を遵守しています。

平成28年度はもちろん、それ以前においても重大な法令違反は行っていません。

一般的な法令	労働安全衛生法、労働基準法、道路交通法、消防法、建築基準法	
業務上の法令	各事業部門に共通	廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）
	土壌汚染対策事業	土壌汚染対策法、建設業法
	バイオディーゼル燃料製造販売事業	食品リサイクル法
	PCB事業	PCB特別措置法
	環境分析部門	計量法、毒物及び劇物取締法、放射線障害防止法、電波法
その他環境関連等の法令	省工ネ法、大気汚染防止法、水質汚濁防止法、下水道法、騒音規制法、海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律、悪臭防止法	

## 優良産業廃棄物処理業者認定制度

優良産業廃棄物処理業者認定制度とは、1.実績と遵法制 2.事業の透明性 3.環境配慮の取り組み 4.電子マニフェスト導入 5.財務体質の健全性 といった通常の許可基準よりも厳しい基準をクリアした産廃処理業者を都道府県・政令市が審査して認証する制度です。当社は、コンプライアンスを含め、適正処理業者の証である優良産廃処理業者認定を延べ12自治体（9都道府県+3市）から受けています（平成29年3月末現在）。

# 安全衛生管理

当社は『安全は、すべてにおいて優先する』を事業活動における基本理念とし、社員一丸となって事故の防止、労働災害・健康障害ゼロに向けた安全衛生管理に取り組んでいます。

## 平成28年度 安全衛生標語

危険箇所 気付けば声出し 即改善  
みんなで築こう 安全文化

### 高所からの落下防止対策

グループ会社である（株）グリーンアローズ九州（GAK）では、高所からの落下防止設備を導入しました。この設備は、一昨年（株）グリーンアローズ中部にて導入し、順次、他の拠点でも導入しているものです。工場では廃石膏ボードをトラックにて搬入していますが、運搬中の飛散を防止するため、荷台上にシート掛けをしています。工場にて荷卸しする際に荷台上のシートを外す作業が発生しますが、この作業は高所作業※となり、落下の危険が伴う作業となります。その際、ヘルメット、安全靴の着用に加え、落下防止設備と安全帯の使用を義務付けました。これらの安全設備を適切に使用していれば、作業者が誤って転落してしまっても、怪我を軽減することができます。

※労働安全衛生法では、2m以上の箇所での作業を高所作業と定義する。



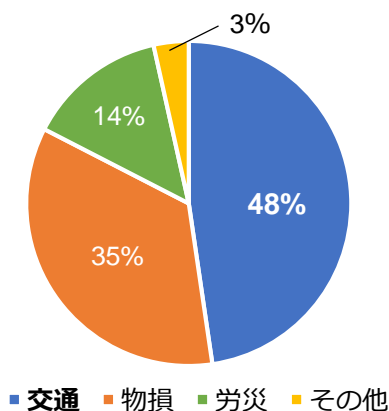
▲GAKの落下防止対策

### 安全衛生部会

毎月、部署ごとに安全衛生部会を実施しています。安全衛生部会では、その月の事故報告やヒヤリハット報告についてのディスカッション、安全衛生に関する勉強会等を行っています。また、安全衛生に関する基礎知識を小テスト方式にて学び、知識・意識の向上に努めています。

### 交通災害対策

当社にて昨年1年間に発生した事故の型を分類すると、約半数が交通事故であることがわかりました（図）。ほとんどが軽微な事故ではありましたが、これらを危険の芽と捉え、交通災害の防止対策を行っています。



▲図 当社事故分類別比率

### 安全運転講習の受講

安全運転の適性検査により、自身の性格や運転時にしがちな行動、注意すべき状況等を各自が把握し、安全運転に役立てています。また希望者は安全運転講習を受講し、知識・技術の確認と向上を図っています。

### 通信タイプドライブレコーダーの導入

当社の営業車にはSDカード記録タイプのドライブレコーダーを設置していますが、新たに、一部車両に通信タイプのドライブレコーダーを導入しました。通信タイプは、危険運転を感知すると関係者にメール送信するとともに、映像データをデータセンターに送信します。これをもとに、ドライバーの教育や安全運転への意識向上に役立てています。

### メンタルヘルスチェック

労働安全衛生法の改正により、従業員50人以上の事業所におけるストレスチェック制度の導入が義務付けられました。当社では、50人未満の事業所も含め全社で本制度を実施し、社員のメンタルヘルス不調防止と、ストレス要因を軽減する環境づくりに努めています。

## 安全研修

労働災害をなくすための安全教育として、安全研修を実施しています。安全研修では過去の労働災害に関する学習や、フォークリフトやホイールローダーといった重機への乗車体験等を行っています。重機への乗車体験をした社員からは、「重機オペレーターの実体験をすることで、オペレーター目線の死角を知ることができ、重機の近くや安全通路外を通行しないよう意識するようになった」という声が挙がっています。



## INTERVIEW

環境事業本部  
関西事業部  
大阪RC センター長  
胡桃沢 竜也



大阪リサイクルセンターでは、「業務が順調であつても事故が起きたら0点、出社時同様に自力で家に帰れたら満点」という意識で、安全第一で業務に取り組んでいます。忙しい時でも月に2回安全衛生部会を実施し、また外部講習にも参加して、従業員の安全衛生知識の習得に努めています。以前は安全衛生に対する意識・知識が十分でなかった従業員も、これらの取り組みを通じて、安全衛生意識・知識の向上を感じています。



▲安全研修

## 熱中症予防

夏場の作業は、屋内・屋外を問わず熱中症の危険性が高くなります。各工場では、冷水・スポーツドリンクや塩飴を常備し、現場で働く作業員の熱中症予防に努めています。また工場以外のオフィスでも、エアコンの完備・追加、体調を気遣う声掛け等により、快適な職場環境づくりを目指しています。



▲応急処置方法、緊急連絡先の掲示



▲エアコンの追加設置



▲冷水や塩飴等の完備

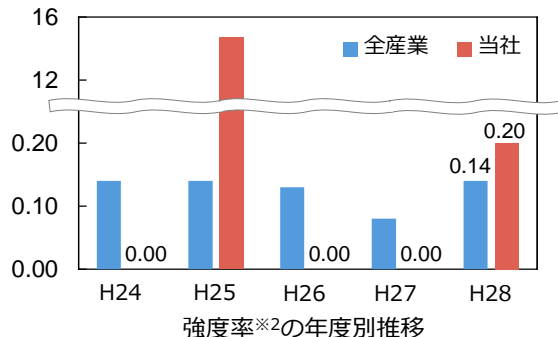
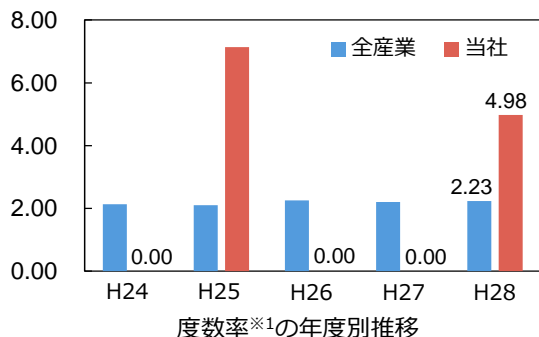


▲工場内に扇風機・スポットクーラーを設置

### 工場の熱中症対策（大阪リサイクルセンター）

## 平成28年度の実績

平成28年度の休業災害は2件でした。平成24年度から平成28年度に発生した休業災害の度数率<sup>※1</sup>、強度率<sup>※2</sup>は以下のグラフの通りです。今年度は、度数率、強度率ともに同事業規模（100～229人）の全産業の値を上回ってしまいました。労災ゼロに向け、全社で取り組んでまいります。



※1 災害の頻度を表す（100万延労働時間当たりの労働災害による死傷者数）  
 ※2 災害の重さを表す（1000万延労働時間当たりの労働損失日数）  
 出典：厚生労働省 労働災害動向調査

# 働きやすい職場づくり

社員は会社の財産です。当社は、社員の健康を第一に、そして個人の能力を十分に発揮して働くことができる職場づくりを目指して、様々な制度の整備を行っています。

## 働き方改革

当社では、長時間労働による心身の健康被害を防止するとともに、公私ともに充実した生活を送ることができるよう、社員の意見や要望を取り込みながら、働き方改革を進めています。現在は、モバイル機器の活用による業務の効率化、効率的な会議運営、一定時間を超える残業の禁止、ノー残業デーの徹底、フレックスタイム制や長期連続休暇制度の導入、土曜研修の禁止等に取り組んでいます。



## INTERVIEW

技術課では個人のパソコンをノートパソコンに替えたことで、現場や出張時に現地では会社サーバに接続し、データ整理等の作業をできるようにしました。

これまで使用していた共用のノートパソコンは台数が限られた上、社外から会社サーバに接続することができませんでした。そのため、個人パソコンがノートに変わったことで、他の課員と持ち出し予定が被ることを気にせず、また事前に会社サーバからデータを移行する手間が無くなりました。さらに想定外の依頼にも出先で対応できるようになりました。

ノートパソコンを導入したことで、いくつかの手間が省け業務効率化に繋がり、助かっています。また、想定外の業務を自ら処理できるようになり、他の課員の負担の軽減にも貢献していると思います。



環境事業本部  
名古屋事業部  
技術課  
高橋 勇貴

## 健康づくりの応援

当社では、様々なサークル活動を支援・推奨し、社員の健康づくりや社員間の交流をサポートしています。



▲サイクリングサークル



▲スキーサークル【雪うさぎ】



▲ゴルフサークル【悠雄会】



優勝者には  
景品があります！

## □ ビアバスト

当社では3か月に一度、ビアバストという交流会を設けています。役職や所属に関係なく、全社員が参加できる会であるため、普段の仕事では接することのない社員と交流したり、お互いの状況を共有したりすることができます。



▲ビアバスト

## □ Good Jobカード

同じ社内で働いていても、感謝の気持ちを伝えるというのはとても難しいことです。ですが、些細な感謝でももらえると励みになります。社員同士の行動について、心温まるサポートをもらえて嬉しかった、クレドに沿った行動を目にした等の事例をカードに書いて渡し、相手に気持ちを伝えることをお手伝いします。これらの事例を大々的に社内に取り上げることで、エネルギーを送り合う企業文化を創造し、チームワークの醸成を図る制度です。

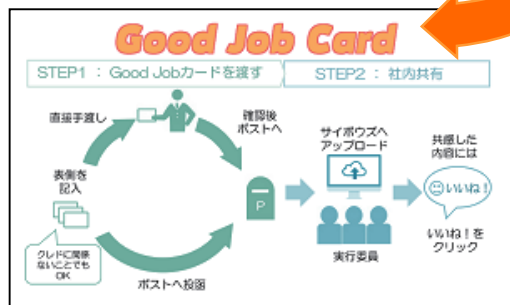
部署： \_\_\_\_\_ さんへ 年 月 日

**Good Job**

部署： \_\_\_\_\_ より

**Credo**

- 1. ぶつ
- 2. 敬重
- 3. チームワーク
- 4. お礼
- 5. 柔軟
- 6. 主体性
- 7. 結束
- 8. コンプライアンス
- 9. 安全



▲Good Jobカード

## □ 社内インターンシップ

当社では、他部署のことを知るために社内インターンシップ制度を設けています。年に1回、希望者が他部署での業務を体験する機会を作っています。

## □ ブラザー・シスター制度

入社1年目の新入社員と、そのブラザー・シスターに任命された先輩社員が交流するという制度です。新しい環境や社会人になった悩み等を相談しやすい繋がりを作ることを目的としています。普段の業務では接する機会の少ない他部署の社員とブラザー・シスターとなることで、お互いの業務の理解にも繋がります。会社からは補助金を支給し、ブラザー・シスター間での積極的な交流を支援しています。

## □ 自己申告制度

仕事では、働きながら自分のやりがいが見えてくることがあります。当社では、毎年、業務内容や配置転換の希望を社員全員から聞く機会を設け、社員のやりがいを大切にしています。

## □ 社員研修

新入社員研修は、約3週間のプログラムで行っています。社会人としての心構えを学ぶために、社外研修として「マナー講座」や、『7つの習慣®』を基とした「ディスカバリー」研修を取り入れています。そして、環境問題の解決を目的とする当社の事業内容の理解をより深めるために、各事業部の担当者が講師となり、実際の現場を経験しながら研修を行っています。

また、新入社員から役員まで、個人の成長段階に応じた研修プログラムを組んでいます。

※スティーブン・R・コヴィー博士が組織変革・自己変革を目的に考えた習慣。リーダーシップ開発トレーニングとして研修化され、多くの企業で導入されている。



▲新入社員研修「ディスカバリー」

# コミュニケーション活動

当社では、お取引先様、投資家様、地域の皆様等ステークホルダーの皆様との信頼関係を最重要課題の一つと考えています。今後もさらなる信頼関係構築に向け、皆様とのコミュニケーションを図ってまいります。

## 施設見学会

当社では、お取引先様や地域の皆様へ向けた施設見学会を実施しています。

バイオエナジーセンター（BEC）では、名古屋市環境事業所主催の見学ツアーにおいて、施設見学会を実施しました。バイオディーゼル燃料（BDF）やBDFの生産方法のご説明、工場見学を通じ、カーボンニュートラル※1な燃料であるBDFについて、また当事業について知っていただく貴重な機会となりました。

仙台リサイクルセンターでは、仙台市の環境団体主催による「ごみのゆくえをしてみよう」バスツアーの施設見学会を実施しました。バスツアーに参加した仙台市民の皆様からは「土がセメント原料になるということを知り初めて知った」「混合された廃棄物がリサイクルできるとは驚きであった」等の声をいただき、皆様の環境学習支援をさせていただく機会となりました。施設見学会は随時開催しており、小学生や町内会の方々等にも、安全かつ環境に配慮したリサイクルフローをご説明しています。



▲BEC施設見学会



▲仙台リサイクルセンター施設見学会  
（仙台環境開発株式会社 中間処理場内）

※1 CO<sub>2</sub>の排出と吸収がプラスマイナスゼロであること。例えば、植物由来のバイオマスエネルギーを使用すると、植物が光合成により吸収したCO<sub>2</sub>とエネルギー使用により発生したCO<sub>2</sub>が等量と見なされるため、大気中のCO<sub>2</sub>が増加したことにはならない。

## 仙台環境開発株式会社様、地域の皆様との交流 IR活動※2

東北支店では、仙台環境開発株式会社様や地域の皆様との交流を積極的に行っています。昨年11月には、仙台環境開発株式会社様の農業法人主催の「収穫祭」に参加しました。地元で捕獲された熊や猪などを仙台環境開発株式会社様の櫻井社長が自ら捌き、料理を振る舞います。当社からは水野支店長が自ら得意のそば打ちを披露し、振る舞いました。また毎年1月に開催される「どんと祭」では、仙台環境開発株式会社様の本社から大崎八幡宮へ向かう裸参りに当社社員が参加し、氷点下にもなる気温の中、安全祈願を行っています。こういった活動等も通じながら、仙台環境開発株式会社様と当社は共同事業の成功に向け共に歩んでおります。

当社では、投資家の皆様に当社の健全経営を示す場として、IR説明会を積極的に開催しています。また、従業員が株主となる持ち株制度も整備しています。

※2 IR：Investor Relationsの略。企業が投資家に向け、経営状況や財務状況、業績動向に関する情報を発信する活動。

## 情報開示

【産廃情報ネット等による情報開示】

（財）産業廃棄物処理事業振興財団が運営する産業廃棄物情報サイト「産廃情報ネット」にて、処理業の優良性の判断に係る情報開示及び許可取得状況開示を行っています。また、愛知県ホームページにて再生資源の適正な活用に関する要綱に基づく情報を掲載しています。

【土壌汚染対策法に基づく指定調査機関の情報開示】

環境省の「土壌汚染対策法に基づく指定調査機関の情報開示に関するガイドライン」に従い、調査実績及び技術力（資格者数等）等の情報を自社ホームページにて開示しています。



▲収穫祭



▲どんと祭



（株）ダイセキ環境ソリューション ホームページ  
(<http://www.daiseki-eco.co.jp>)



## INTERVIEW

# 吉野石膏株式会社 様

吉野石膏株式会社様は、石膏を原料とする建築材料の製造・販売等を行っています。当社の参画するグリーンアローズホールディングス（GAHD）の一員でもあり、当社の廃石膏ボードリサイクル事業で中間処理をした石膏粉をお引き取りいただき、石膏粉のリサイクルに貢献されています。

### ●GAHD設立に参画された経緯をお聞かせください。

高度成長期以降、急速に建築物が増え、石膏ボードも飛躍的に使用されました。また平成18年6月以降、廃石膏ボードの処理が安定型埋立から管理型埋立に変更され、急激に増加した建築物をいずれ解体するときに、廃石膏ボードの処理が社会的な問題になると考えました。石膏ボードメーカーとして、この問題に取り組もうとするGAHDに賛同し、参画いたしました。

### ●当社グループ会社であるグリーンアローズ中部（GAC）と貴社三河工場様、グリーンアローズ九州（GAK）と貴社北九州工場様とのお取引内容をお聞かせください。また、貴社から見たGACとGAKはどのような位置づけですか。

GAC、GAKで中間処理された石膏粉をお引き取りし、当社製品の原料としてリサイクルしています。貴社には、安定した品質の原料を納めていただいております。

### ●齊藤様から見て、当社グループ、当社グループ社員はどのような印象ですか。

環境問題解決への熱意が大変強い会社であり、若くてバイタリティーのある方が多いという印象です。

### ●今後、当社グループに期待されていることをお聞かせください。

今後、廃石膏ボードはますます増加していき、捨てる以外の活用方法が今以上に必要になると予測しています。今後も貴社と協業し、社会に役立つリサイクルシステムの構築に取り組んで参りたいと考えております。また、貴社には今後とも品質の良い原料を継続してご提供いただけることを期待しております。



吉野石膏株式会社  
営業統轄本部  
次長  
齊藤 直也 様

## Family Day企画

社員のお子さんを会社に招待して、親がどのような仕事をしているのか知り、体験してもらう企画『Family Day』を開催しました。BECの見学や、使用済みてんぷら油とBDFの違いを調べる科学実験等を行い、親子の交流を深めました。

お父さん、お母さんのお仕事を体験できるなんて楽しそうだね！



▲Family Day企画

# 社会貢献活動

当社の事業は環境やリサイクルに関わるものが多く、間接的な社会貢献に繋がると考えています。同時に事業以外でも、直接的な社会貢献活動に取り組んでいます。地域社会の一員としての自覚を深め、社会貢献活動をより一層広げていきます。

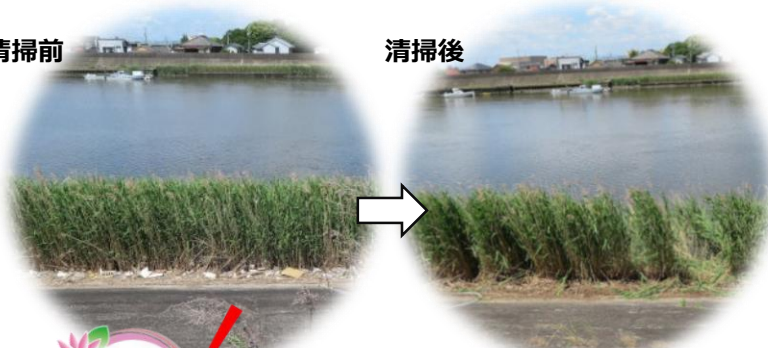
## □ 藤前干潟クリーン大作戦

藤前干潟は、名古屋港に残された日本最大級の渡り鳥渡来地であり、渡り鳥たちの休息と栄養補給の大切な中継地になっています。しかし、上流から運ばれた空き缶やペットボトル、プラスチック製品等のゴミが散乱し、流域住民の良識が問われています。

名古屋本社では、平成23年から、藤前干潟清掃活動への参加を社員へ呼びかけています。会社からも、参加する社員に対して昼食や熱中症対策の飲み物を提供し、活動を支援しています。

清掃前

清掃後



ゴミがなくなって、  
とってもきれいになったね



## INTERVIEW

藤前干潟の清掃活動は春と秋に開催されます。昨年、自分の体を動かして環境に貢献したいと思い参加しました。何気なく通ると見過ごしてしまったり、小さなゴミがあるだけでも見えたりしますが、実際には泥や草の陰に多く潜んでいて、終わった後は驚くほど綺麗になります。一つを見るとどうってことのないゴミでも、集まると渡り鳥の住処をなくしてしまうほどの影響があると強く実感しました。地元の環境保全のためにも、これからも参加を続けたいですね。



企画管理本部  
人事部 人事課  
柴田 依里子

▲藤前干潟クリーン大作戦

## □ 大阪マラソン“クリーンUP”作戦

毎年秋の大阪マラソン開催前の1週間、大阪市の主催により、きれいな街づくりのための清掃活動が行われています。大阪市が各企業や団体、一般市民に呼びかけ、公共スペースを清掃する取り組みです。

関西支社では、毎年参加者を募り、この活動に参加しています。昨年は14名の社員が参加し、事務所から近い千島公園の清掃を行いました。



▲大阪マラソン“クリーンUP”作戦



## 工場周辺の構外清掃

当社では、定期的に工場や事業所周辺の清掃活動を社員で行っています。日頃から私たちが使う公共の場所を清掃することで、地域貢献への意識も高くなっています。



▲GAC本社工場の活動



▲GAC名港工場の活動



▲GAKの活動

## 古切手収集

当社では、郵便物に貼られている切手を回収しています。古切手は、日本赤十字を通じて日本キリスト教海外医療協力会（JOCS）へ送られます。古切手約1kg（5000枚分）が約1900円で収集家の方に販売され、海外医療援助の人材派遣費用に当てられています。



## 救缶鳥

当社では、平成26年から株式会社パン・アキモトの飢餓対策支援活動「救缶鳥プロジェクト」に参加しています。「救缶鳥プロジェクト」とは、賞味期限3年の「パンの缶詰」を備蓄から2年後、賞味期限を1年残して（株）パン・アキモトが回収し、義援物資として、NGOを通じて飢餓に苦しむ国々へ届けられる活動です。当社では今年1月、計23箱分のパンを海外へ送ることができました。間接的ではありますが、これからもこの活動への参加を続けることで、世界の飢餓対策支援に貢献していきたいと思えます。



参照：（株）パン・アキモトホームページ [http://panakimoto.com/products\\_kyucancho/](http://panakimoto.com/products_kyucancho/)

## エコキャップ運動

ペットボトルのキャップは、リサイクルできる有価物です。当社ではペットボトルのキャップを回収し、活動団体（NPO団体、エコキャップ推進協会）を通じて医療支援や発展途上国へのポリオワクチンの寄付、障害者支援、子供たちへの環境教育といった様々な活動に貢献しています。平成22年夏から累計54,044個が集まり、62.8人分のワクチンとして貢献することができました。



# 災害廃棄物の迅速な処理に向けて

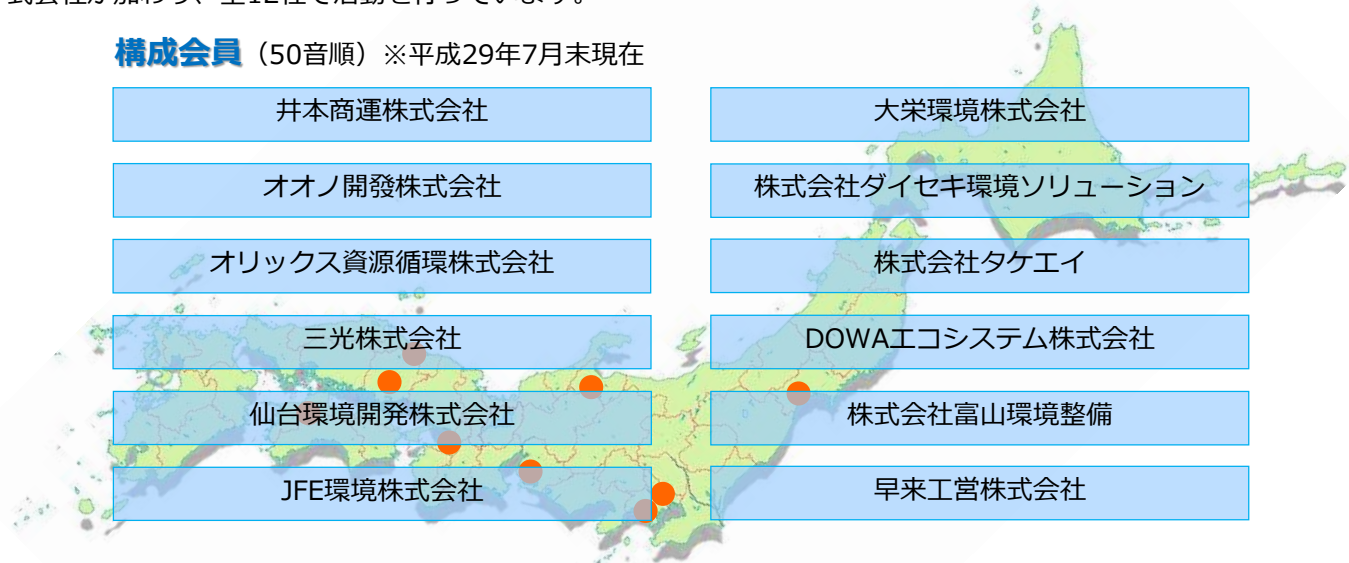
全国で発生する災害廃棄物の迅速で効率的な処理のため、平成28年2月に一般社団法人日本災害対応システムズが発足しました。当社はこの組織に参画しており、様々な取り組みを行っています。

## □ 一般社団法人日本災害対応システムズ設立の経緯

わが国では、地震災害や豪雨災害等の大規模な災害が頻繁に発生しています。阪神淡路大震災や東日本大震災等の大災害では大量の災害廃棄物が発生し、それらを迅速で効率的に処理する必要性が生じました。そうした中、平成27年4月に「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び「災害対策基本法」の一部が改正され、災害廃棄物の迅速な処理に向けて、適正処理を確保した上で既存の廃棄物処理施設を柔軟に活用しようとすることや、国・自治体・民間事業者間の相互協力・連携の強化が盛り込まれました。改正法を円滑に運営するためには、私たち廃棄物処理業者が主体的に取り組んでいく必要があります。

このような背景より、井本商運株式会社、仙台環境開発株式会社、大栄環境株式会社、DOWAエコシステム株式会社、株式会社富山環境整備、そして当社の6つの構成会社にて一般社団法人日本災害対応システムズ（Japan Disaster Treatment Systems、以下JDTS）を平成28年2月25日に設立しました。現在ではオオノ開発株式会社、オリックス資源循環株式会社、三光株式会社、JFE環境株式会社、株式会社タケエイ、早来工営株式会社が加わり、全12社で活動を行っています。

### 構成会員（50音順）※平成29年7月末現在



井本商運株式会社	大栄環境株式会社
オオノ開発株式会社	株式会社ダイセキ環境ソリューション
オリックス資源循環株式会社	株式会社タケエイ
三光株式会社	DOWAエコシステム株式会社
仙台環境開発株式会社	株式会社富山環境整備
JFE環境株式会社	早来工営株式会社

## □ JDTSの取り組み

JDTSは災害発生前から発生後の廃棄物処理に至るまで、地元自治体と協力して関係各方面へのサポートを行っています。地元で処理しきれない廃棄物に関しては、当組織の広範な輸送システムや全国各地の処理施設を活用することができ、当組織活用の大きな特徴となっています。

また、平時には災害廃棄物の特徴に応じた処理方法に関するノウハウのとりまとめの他、地方環境事務所が主催するブロック協議会等で発表したり、学識経験者にPRする等してJDTSを広く認知してもらうための取り組みを行っています。

### 災害発生前後のJDTSの対応

災害発生前	災害発生後
<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの経験から得た迅速な災害廃棄物処理に関する課題や対策を各方面へ提案</li> <li>災害発生時の対応方法の事前調整</li> <li>災害発生時の当組織の体制を事前準備 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現地対策本部設置</li> <li>被災自治体を通して地元建設会社、産業廃棄物協会、解体工事業協会に対し合理的な廃棄物処理方法を踏まえた集積方法を提案</li> <li>当組織の施設を活用した災害廃棄物処理及びその管理 等</li> </ul>

## JDTSと熊本震災

平成28年4月の熊本地震により発生した大量の災害廃棄物を処理するため、地元業者5社及び災害廃棄物処理の実績を持つJDTS加盟業者7社からなる事業連合体が県からの平成28年熊本地震二次仮置場災害廃棄物処理業務委託を受け、処理業務を行っています。

業務内容としては、県内7市町村にある一次仮置場や解体現場から運ばれてくる災害廃棄物を、二次仮置場にて再資源化のために中間処理を行い、各処理先へ搬出しています。当社は汚染土壌・産業廃棄物をセメント原料へとリサイクルしている強みを生かし、全国のセメント工場へ中間処理した木くず・瓦礫の処理を依頼し、品質の確認、搬出の管理を行っています。

### 災害廃棄物の種類



木くず



コンクリートがら



廃瓦



混合廃棄物

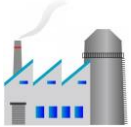
### 処理方法

粗選別・異物除去・破碎・チップ化

仮置き・積替え

選別・破碎・圧縮

### 主な処理先 (再利用方法)



県外のセメント会社  
(セメント原料)



県外の製紙会社  
(製紙原料)



県外のバイオマス施設  
(バイオマス燃料)



県内の破碎施設  
(土木資材)



県外のセメント会社  
(セメント原料)



県内の管理型最終処分場  
(覆土材)

※埋め立てた廃棄物の中を通過してしみ出す雨水が、地下水などに影響を与えないよう対策が整えられた埋め立て処分場。遮水シートが敷かれたり浸出液処理施設等が設置され、水質試験やモニタリングによって管理される。



▲木くず 仮置・処理ヤード



▲混合廃棄物 処理ヤード



### INTERVIEW

JDTSの構成事業者である当社は、熊本地震で発生した災害廃棄物の処理を行う「熊本県災害廃棄物処理事業連合体」に参画しており、私は平成29年2～5月の約4ヶ月間、熊本県上益城郡益城町の現場事務所に駐在し、震災復興業務のお手伝いをさせていただきました。業務内容としましては、熊本地震により発生した木くず、混合廃棄物等の災害廃棄物を中間処理し、全国各地の処分会社へ搬出するために、熊本県への各種申請書類の作成や行政対応、運搬及び処分会社との折衝、搬出車両や船舶等の搬出調整を担当しました。

災害廃棄物の仮置場には日々、大量の廃棄物が搬入されるため、その廃棄物の処理や搬出がスムーズに進まずに在庫が溢れかえった時等、頭を悩ます時もありましたが、自分が熊本地震の復興に関わることができ、熊本の皆様のお役に立てるという大きな誇りを持って、お仕事をさせていただきました。



環境事業本部  
関西事業部  
西日本営業所  
横瀬 和正

# 第三者コメント

国立大学法人 富山大学大学院理工学研究部  
地球生命環境科学専攻

丸茂 克美（まるも かつみ）教授

## プロフィール

名古屋大学で博士（理学）を取得。平成24年より現職。環境地球化学を専門とし、環境中に存在する有害金属類の存在形態を解明し、環境汚染対策や資源開発に応用する研究を行っている。自然由来重金属類評価研究会を創設以来10年間、会長を務める。東京都中央卸売市場の土壤汚染対策問題では、協議会委員も務められた。



この度、第三者コメントの執筆依頼を受けましたので、本報告書について感想や要望等を述べさせていただきます。貴社（株）ダイセキ環境ソリューションのお名前は土壤汚染対策を行う企業として以前から存じており、急成長を遂げられている企業だと認識しております。

本報告書は毎年新入社員の皆さんが中心となって作り上げられていることをお聞きしました。入社間もない新入社員が自社の事業活動や社会的なニーズを学ぶ大変良い機会ですし、また、報告書を作成する中で新入社員同士のみならず先輩社員や、上司の方々とコミュニケーションが図れるため、新入社員の教育にとって素晴らしい取り組みだと感じました。

まず初めに目に留まったのは特集 I の汚染土壌洗浄プラントの紹介で、社会のニーズにうまく応えている記事だと感じました。豊洲市場の汚染土壌問題を契機に、土壌汚染対策が注目されており、汚染土壌洗浄プラントが活躍しています。こうしたプラントは一般の方々には馴染みが少ないのが現状ですが、この記事ではわかりやすい図を使って、プラント内で汚染土壌をどのように分離・処理しているかが説明されています。

一点要望を申しますと、例えば「豊洲市場が整備される前に存在していた工場跡地の汚染土壌をこのプラントで処理すると、どれほどの日数を要するか」というふうに具体的な数字を使って説明していただけると、汚染土壌洗浄プラントの処理能力を理解しやすいのではないかと思います。

マスバランスや環境測定データ、事業所別のCO<sub>2</sub>排出量に関する記事や環境負荷低減に向けた目標とその実績を公表されている記事もあり、貴社がいかに環境に配慮しながら事業を展開されているのかを読み取ることができました。このような取り組みは普段見えにくい部分であり、他の企業の説明資料では手が抜かれやすい箇所ですが、地球環境への負荷低減のために必要な取り組みです。

また、一般の方々とのコミュニケーションの場では、洗浄された土壌がセメントの原料になることを紹介されており、資源リサイクルや静脈産業※の重要性について、わかりやすく理解してもらうための活動をされています。ここでも、静脈産業を担う貴社の意気込みを感じ取ることができました。

最後に、一般社団法人日本災害対応システムズへの参画を通して、貴社が持つ資源が「巡る」仕組みや全国に点在する災害廃棄物の処理業者の輪を更に広げようという志が伝わりました。被災地の復興には迅速な災害廃棄物の処理が求められるため、貴社の今後の活躍を期待しております。

現在では日本のみならず、世界規模で環境問題が発生しています。この問題を解決するためには環境汚染対策や資源循環に関する高い技術力や知見を持った企業の存在が不可欠です。世界が大きな「輪」で繋がりつつある中で、資源が「巡る」仕組みや環境問題と解決策が繋がる「輪」を生み出し続けることは大切です。貴社の更なる発展と国内外の環境問題への貢献を期待しております。

※廃棄物や不要物を回収し、再び物質循環のサイクルに戻す産業

# 会社概要

商号	株式会社ダイセキ環境ソリューション（東京・名古屋証券取引所一部 証券コード1712）
代表者	代表取締役社長 二宮利彦
設立	平成8年11月1日
資本金	22億8,746万8,700円
従業員数	184名（グループ合計、平成29年度2月末現在）
業務内容	土壌汚染調査及び対策工事、汚染土壌処理産業廃棄物処理及び収集運搬、環境分析、水銀リサイクル、環境コンサルティング、廃石膏ボードリサイクル、地盤改良材製造、バイオディーゼル燃料製造販売、PCB廃棄物収集運搬及びコンサルティング

## 事業拠点

- 本社  
愛知県名古屋市港区船見町1番地86
- 東京本社  
東京都港区芝浦3丁目14番19号8階
- 関西支社  
大阪府大阪市大正区南恩加島7丁目1番82号
- 九州支店  
福岡県糟屋郡宇美町ゆりが丘2丁目7番15号
- 東北支店  
宮城県仙台市青葉区芋沢字青野木223番地3
- 西日本営業所  
広島県広島市南区的場町1-1-21-903
- 名港事務所  
愛知県名古屋市港区築三町3丁目1番3
- 愛子事務所  
宮城県仙台市青葉区上愛子字平治15-1
- PCB事務所  
愛知県東海市南柴田町ホノ割213番地7

## グループ会社

- 株式会社グリーンアローズ中部 本社工場  
愛知県東海市南柴田町ホノ割213番地7
- 株式会社グリーンアローズ中部 名港工場  
愛知県名古屋市港区築三町3丁目1番3
- 株式会社グリーンアローズ九州  
福岡県糟屋郡宇美町ゆりが丘2丁目7番15号

## ダイセキグループ

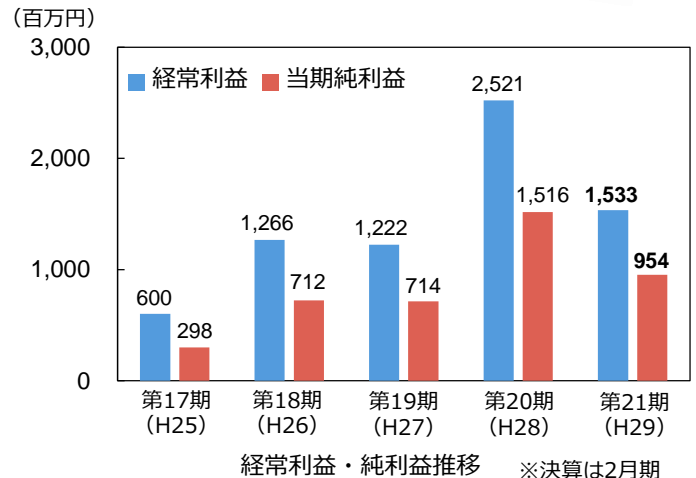
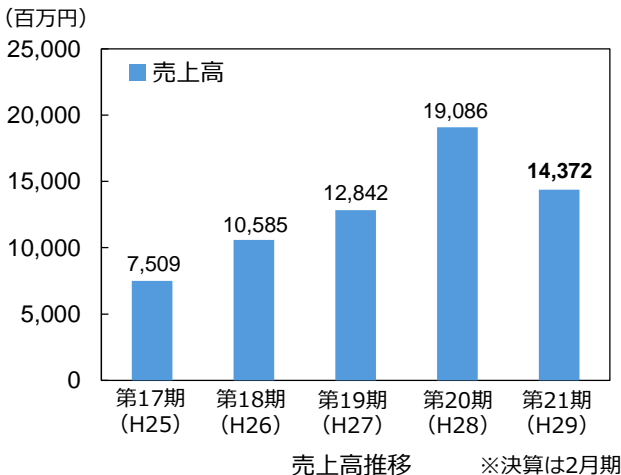
株式会社ダイセキ

愛知県名古屋市港区船見町1番地86

北陸ダイセキ株式会社・株式会社ダイセキMCR・システム機工株式会社

## 工場

- 名古屋リサイクルセンター  
愛知県東海市新宝町29番地1
- 弥富リサイクルセンター  
愛知県弥富市楠3丁目24-2
- 横浜リサイクルセンター  
神奈川県横浜市鶴見区生麦2丁目2036番地50
- 大阪リサイクルセンター  
大阪府大阪市大正区南恩加島7丁目1番82号
- 共同事業汚染土壌処理施設  
（仙台環境開発株式会社 中間処理場内）  
宮城県仙台市青葉区芋沢字青野木223番地3
- バイオエナジーセンター  
愛知県東海市浅山3丁目203
- 名古屋トランシップセンター  
愛知県弥富市楠3丁目24-2



# 環境・社会報告書2016アンケート結果

「環境・社会報告書2016」には、読者の皆様から数多くの貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。良かった点としては、「女性の活躍が想像しにくい業界なので、現場最前線の女性をピックアップして良かった」「事業俯瞰図によって各事業の横の繋がりが見えるようになった」「用語集は読む人の目線に立っていて良かった」というコメントを多くいただきました。改善すべき点についてのご意見は全てを反映させることはできませんでしたが、可能な限り参考にさせていただき、本報告書を作成いたしました。改善すべき点に関するご意見・ご要望と、本報告書の検討・改善結果は以下の通りです。

項目	ご意見・ご要望	検討・改善結果
全体	文字数が多い。	文章での説明を簡潔にし、写真やイラストを多くすることで、文字数の削減に努めました。
	文字が小さく見づらい。	文字サイズを大きくし、字体を変更いたしました。
	行間が詰まっています、長文が読みづらい。	行間を広くし、読みやすくいたしました。
	写真が少ない。社員の顔がもう少し見えた方が良い。	社員の写真を増やしました。
	写真の解像度が低く見栄えが悪い。	本報告書はHPにアップロードするため、データ容量の大きい高画質な写真を多く掲載することが困難です。そのため、画質は極力保持するよう努め、また写真を大きく掲載いたしました。
特集	災害復興支援について取り上げてはどうか。	特集Ⅱ（p25～26）で（一社）日本災害対応システムズについてご紹介させていただきました。
用語集	用語が出てきたページに説明を記載した方が分かりやすい。	用語が出てきたページに注釈を付けました。

## 編集後記

当社の環境・社会報告書2017を最後までご覧いただき、誠にありがとうございます。今年4月に新入社員全員で話し合い決めたテーマ「環～わ～」を掲げ、期待と不安を胸に本報告書の作成をスタートさせました。当社の事業規模は年々拡大し、本報告書で皆様にお伝えしたい内容も年々増えています。これは非常にありがたいことですが、同時に新入社員として、それを理解し1冊にまとめることの難しさに直面しました。テーマに相応しい報告書にするにはどうすれば良いのか、報告書作成委員会で多くの議論と試行錯誤を重ね、また多くの方々取材をさせていただくことで、自社への理解を深めることができました。取材では多くの出会いと発見があり、非常に貴重な経験をさせていただいたと感じております。本報告書を作成するにあたりご協力いただきました皆様に、この場を借りて心より御礼申し上げます。

「環～わ～」には、「読者の皆様に当社の『環』をお伝えし、その『環』をより強く、大きくしていきたい」という思いを込め、本報告書の作成に取り組んでまいりました。本報告書を手にとってくださった皆様に、当社の「環」を感じていただけたら、これに勝る喜びはありません。

今後も、皆様の関心に応えられるような報告書を作成してまいります。ぜひアンケートにて率直なご意見・ご感想をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

環境・社会報告書2017作成委員会一同





